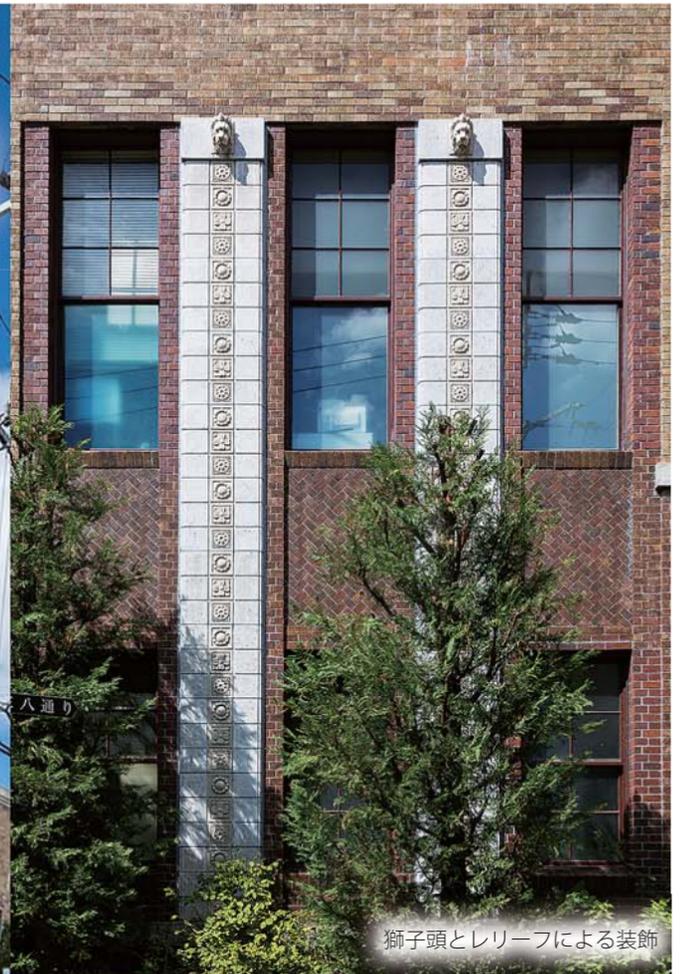


旧芦屋郵便局電話事務室が 国登録有形文化財に登録決定



所在地: 大樹町5-23



獅子頭とレリーフによる装飾



戦前の外観写真

■建物の変遷

現在、芦屋モノリスとして皆さんに親しまれている建物は、通信省 芦屋郵便局電話事務室(電話交換局)として1929年に竣工した建物です。これまでに増築や用途変更に伴う改修が行われていますが、ほとんど新築当時の外観を留めています。写真のように太平洋戦争時の防空迷彩のためのコールタール塗装や戦後のリシン吹付塗装によってタイルが覆われていましたが、1986年に保存改修工事によりそれらを除去し新築時の外観を取り戻しました。その後、全国的にNTTのお客様窓口が廃止されていき、空きスペースの利活用として、2004年に用途変更を行い結婚式場として活用されることになりました。



1984年 外観保存改修工事前の外観 (NTT ファシリティーズ所蔵)

執筆者: NTTファシリティーズ関西事業本部 建築設計部門 柳楽和哉

■旧芦屋郵便局電話事務室の特徴

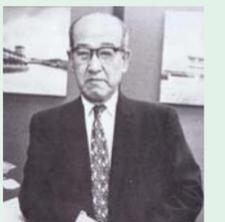
外壁仕上は茶系統のスクラッチタイル貼りで、1階は濃茶色、2階は薄茶色と二色のタイルが貼り分けられており、濃色を低層部に使うことで落ち着きのある外観となっています。また、所々に獅子頭とレリーフによる装飾が施されています。建物の正面、北側前面道路側には写真のような幅2m(玄関部分は3m)の側廊が付いており、その部分に掛かる連続アーチがこの建物のファサード(*)を特徴付けています。また、内装では、現在ゲストルームとして利用されている2階「旧女子休憩室兼食堂」には天井の漆喰の装飾が新築当時のものとして残っています。*ファサード…建築物を正面から見た外観



側廊

■設計者 上浪朗氏

1897年、大阪市生まれ。1922年東京大学建築学科を卒業、通信省に技手として奉職後、1923年通信技師になり、先輩の吉田鉄郎氏、山田守氏等と共に設計活動を行いました。茶系統のスクラッチタイル貼りの作品も多く見られ、「芦屋郵便局電話事務室」はそのなかでも特に秀逸なものとされています。関西の現存する上浪朗氏による設計の建物は、「芦屋郵便局電話事務室(現芦屋モノリス)」「姫路郵便局電話事務室(現姫路モノリス)」の2件が竣工時に近い形状で残っています。



広報あしや4月15日号

2面 行政情報	5面 文化・芸術の催し
3面 市からのお知らせ	6面 暮らしの情報ガイド
4面 特集: 「文豪ストレイドッグス」 ×谷崎潤一郎記念館	7面 健康・保健/保健センターだより (予防・健康づくり)
	8面 わがまちトピックス